

日韓市民ネットワーク・なごや

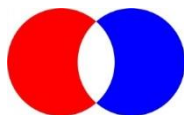
会報 No. 78
2016-10-5

한일 시민 네트워크 · 나고야

Home Page : <http://home.m00.itscom.net/nikkan/index.html>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

- | | | |
|---|--------|-------------|
| 1 | 事務局通信 | 統括幹事：後藤和晃 |
| 2 | お知らせ | 事務局 |
| 3 | 交流団感想文 | 交流団とホストの皆さん |
| 4 | 後記 | 事務局 |



事務局統括幹事 後藤和晃

1. 交流の夏に紡いだ新しい絆 ～大邱学生交流団を迎えて～

私たちは『交流の夏』を合言葉に、毎年、夏に韓国各地から学生交流団を受け入れて、奈良一泊旅行のプレゼントやホームスティを行ってきました。

今年、受け入れたのは人口 250 万人の大都市、大邱(テグ)市にある慶北大学で考古学を学んでいる大学院生ら 15 人でした。



一行は 8 月 3 日、釜山港からフェリーで大阪港へ入り、バスで名古屋駅に到着、その夜はホームスティのホストや日韓市民ネットワークの会員たちと名古屋駅前の居酒屋で交流会に臨みました。

大邱の大学院生の中で、日本語を自在に話すことができたのは 2 人だけでしたが、他の学生も考古学を学んでいる立場上、日本語の読み書きはできるため双方の対話は弾みました。

この夜、彼らが驚いたのは日本側の出席者の大半が韓国語を流暢に語り、残りのメンバーも多少とも韓国語を話すことができた事です。

日本側から出席した会顧問の李尚勲氏それに李純子氏が韓国語が話せるのは当然としても、次に紹介する人たちの韓国語のレベルはかなり高く大邱の学

生たちも目を見張ったことでしょう。

男性では、会報編集担当の中川修介氏や名古屋市 OB の藤野孝博氏、英語や中国語もできる村越稔氏それに名古屋大学の鈴木健介君などの声が響いていました。

女性では、韓国に留学した経験を持つ若い OL の 2 人、石田樹梨氏と森田真奈子氏(中日新聞記者)が楽しそうに韓国語の会話に打ち込んでいました。会が発足した 19 年前には想像もできなかった状況が目の前に展開しているのを見て、感無量の想いがありました。

さて、大邱の一行は翌 8 月 4 日から 1 泊 2 日で古代の韓日歴史交流の姿を探索しようと、奈良に向かいました。4 日には、古代の国道第 1 号ともいわれる山の辺の道の周辺に、まず、天皇陵(崇水・景行天皇陵)や箸墓古墳、黒塚古墳、橿原考古学研究所付属博物館などを訪ねました。



奈良 法隆寺

次いで日本の世界遺産第 1 号で古代韓国とも縁が深い法隆寺を訪問、管長の大野玄妙師の弟、大野海雲師に丁重に迎えていただき、国宝の仏像群や玉虫厨子などが立ち並ぶ宝物館も見学を許されました。



東大寺・大仏殿

翌5日は、奈良の平成宮跡で朱雀門、大極殿を見た後、東大寺に向かい、法華堂、二月堂、南大門などを経て、最後に世界最大級の木造建築物という大仏殿に入りました。そこでは、大仏殿担当の狭川光俊師の手引きで、大仏の膝に手を触れることができる回廊まで特別に登らせてもらい、15メートルもの巨大な

2. 大邱「寿城区」関係者が長良川で清遊

大邱学生交流団が来日する5日前、7月29日(土)の夕方のことです。岐阜市を流れる長良川の川岸に並んだ鵜飼観光船上で、韓国大邱市の寿城区からやってきた岐阜市のお客様8人が、上流から下りてくる鵜飼舟に熱い視線を送っていました。

メンバーを紹介すると、イ・ジンフン寿城区長、キム・スクチュ区議会議員(女性)、韓日親善交流協会のイ・ドンゲン会長などですが、少々、目を見張ったのが8人の半数が女性だったことです。

区議会の議長、区議会議員、区議会事務局、そして、区役所広報という人達でしたが、寿城区は女性の進出が目覚ましい所という印象をうけました。

一行は、この日の日中に岐阜市役所に細江市長を訪問しました。来年は、岐阜出身で「大邱農民の恩人」とうたわれた故水崎林太郎翁が寿城池を造成してから90周年という節目の年にあたるため、毎年4月に行っている追慕祭をより盛大に行いたいこと、また、例年、秋には観光振興も狙って寿城池祭りを行っていること、などを伝え2つのお祭りに岐阜市の参加・協力を要請したのです。

細江岐阜市長は「寿城の皆さんの要望には、なるべく添えるよう努力します」と応諾されたといいます。

さて、舞台を長良川に戻しましょう。夕闇迫る船上では、細江市長や杉山岐阜市議会議員、それに、水崎林太郎翁の曾孫の水崎元宏氏など、岐阜市側のメンバーと寿城区の人たちが心づくしの割子料理に舌鼓を打ちながら乾

3. 大田近代史研究者の熱い夏

9月のはじめ、夏の暑さが残る九州・鹿児島県を今や韓国の中核都市の1つとなった人口150万人の大田市の歴史研究者たちが訪問、各地で戦前の大田に住んだ人たちから、当時の暮らしぶりなどを取材しました。

私たち日韓市民ネットの発足(1998年2月)にも大田から引き揚げてきた人達が大いに関係していたという事情も

大仏が、どのような思想のもとに建立されたかについて説明を受けました。

この日の夕刻、名古屋に帰り着いた一行は、それぞれホストの家に迎えられ、以後2泊3日のホームステイを経て大邱に帰って行きました。短い交流期間ではあったのですが、今年もまた、私たちと韓国の若い世代との新しい絆が生まれました。大邱は、元来、大正時代に大邱に移住した農民たちのために死力を尽くして大農業用水池「寿城池」を完成し、今も慕われている故水崎林太郎翁(岐阜県出身)に係る都市で、私たちの会も創立いらい交流を続けている都市です。来年は水崎林太郎翁が大邱で寿城池を完成させてから90周年という節目の年に当たります。

私たちはらを会を挙げて来年4月早々に行われる予定の水崎林太郎翁追慕祭に参加し、この夏に絆を結んだ学生たちとの再会も果たして来ようと思います。

「交流の夏」参加者の感想文は5頁から・・・

杯を繰り返していました。



長良川・鵜飼観光船

私たちの会の会員でもある水崎元宏氏に後日、聞いた話では、岐阜市議会議員の杉山利夫氏が「来年4月の追慕祭には必ず、あんたに同行して出かけるようにするよ!」と声をかけられたそうです。

来年の追慕祭が盛大なものになれば、池完成から95周年となる2022年や100周年となる2027年の追慕祭も、充実した内容のものになるだろうと期待できるのではないのでしょうか?

～鹿児島県に旧住民を訪問～

あり、会員の皆さんには大田という都市に、ぜひ関心を持っていただきたいので、大田という都市の成り立ちをまず、ご説明しておきます。

110年ほど前の1905年、京城(今のソウル)から釜山まで鉄道(京釜線)が開通しました。当時の大田はハンバツ(大きな畑)という名の小さな集落で数えるほどの住民しか

住んでいませんでした。
ところが京釜線開通前後から、その村に爆発的な勢いで日本人が大勢、移住して来ました。



左端が萩元正彦さんその右、道行さん

その背景には、1910 年に朝鮮半島を合併した日本が、植民地経営をいち早く軌道に乗せるため鉄道輸送の体系化を急いだことがあげられます。

具体的には、京城(ソウル)から南に 160 キロの大田を一大鉄道基地とし、そこから当時、半島の西南部全羅道にあって、朝鮮一の良港といわれた木浦(モッポ)までの、鉄道(湖南線)を大至急、敷設していったのです。

こうした事情で多数の鉄道関係者を筆頭に行政、教育、商業など、あらゆる分野の日本人が移住してきて市街は瞬く間に内地と変わらない様相を見せ、街の名前も大田(たいでん)と日本風の呼び方になりました。

いらい、終戦までの 30 年余の大田の目覚ましい発展は、ほとんどが日本人の手によって進められたため「大田は日本人が造った町」とまで言われていました。



さて、今回の取材は 6 人のチームで行いました。
大田からは市役所で博物館や文化財などを担当しているアン・ジョンホ氏とコ・ヨンス氏が、やって来ました。京都からは 2 人の通訳を引受けた女性美術家のペ・ヨンスンさんと沢崎カメラマンが駆けつけました。

その他、取材陣の案内役として会事務局の後藤が加わり、以上の 5 人を鹿児島市に住んでいる釜山出身の主婦チヨン・ミスクさんが自分の車に乗せ、ボランティアで北へ南へと輸送してくれたのです。

最初に訪れた霧島市では、戦前、大田駅裏の鉄道官舎でずっと暮らしていたという萩元正彦さん(85 歳)と萩元道行さん(83 歳)の兄弟に話を聞くことができました。お二人は 80 歳を過ぎた高齢者とは思えないほど記憶力に秀れ、はつらつとした人達でした。

私たちがまず驚かせたのは兄の正彦さんでした。正彦さんは、自分たちが住んだ鉄道官舎や官舎の周辺の山河まで緻密に復元した立体模型を見せながら説明を始めました。官舎は、その屋根を取り外すと、内部の構造が台所、居間、トイレ等々よく分るように造られていました。一方、弟の道行さんは 2m 四方もの和紙上に大田駅から 600m~700m の範囲にあった鉄道、道路、川、水田、畑、数百軒もの民家、商家などの位置を極めて正確に色彩豊かに描いていました。

お二人とも「大田は、僕らのふるさとですからね！いつまで経っても忘れませんよ！」と言います。

大田から引き揚げて 71 年 経過した今でも、子供時代を過ごした官舎や街の様子は、臉の裏に今もしっかりと焼きついて残っているようで、大田に対する溢れるばかりの愛情がよく伝わってきました。

翌日は、鹿児島市で 87 歳という高齢でも、かくしゃくと老人福祉施設の運営を行っている松久保秀徳さんを訪れました。



松久保秀徳さん

松久保さんは、当時の朝鮮で 4 番目に開校したという名門の大田中学で学んだ人ですが、大田中学に入学する以前の田舎暮らしの話には本当に驚かされました。松久保さんのお父さんは、韓国にあった師範学校を卒業し、妻(松久保さんのお母さん)を連れて忠清道の田舎に赴き、日本人の教員は 1 人だけという学校で勤務したというのです。松久保さんの話です。

「日本人の家庭は我が家だけという田舎で僕は生まれましたからね。物心ついて外で遊び始めたら廻りにいる子は皆、韓国語で話します。こちら韓国語を話さないと一緒に遊べない。もう、小学校に行く頃には韓国語をぺらぺらと話していましたよ！」

「母も僕と全く同じ、近くの女たちも皆、韓国語しか話さないですから、母も少しづつ韓国語を覚えて、けっこうペラペラ会話している様子でしたね」



浜田幸枝さん

松久保さんは、冒頭書いたように小学校を卒業すると名門の大田中学校に入学、寮住まいを経験します。当時、大田中学の生徒の20%程度が韓国人だったそうですが、そんな韓国人の友達から言われた言葉を松久保さんは覚えていました。彼らは「おれたちを少しも差別しないのは、お前だけだよな！」とよく言いました。日本人の生徒の中で、韓国語を話せたのが僕だけだったせいか分かりませんが…」

「韓国で生まれたんだから、僕たちの故郷は、韓国ですよ！」という松久保さんの妹が太平洋戦争中、特攻の基地だった知覧にいと聞いて訪ねました。妹の幸枝さんも(84歳)もこう話していました。「私も故郷は韓国だと思っていますよ。今でも兄や妹など3人も集まれば、話はいつも韓国のことばかりですから！…」

以上が、今回の取材紀行の簡単なレポートです。

最後に記しておきたいのが、今年の11月10日(木)に大田でペ・ヨンスンさんが去年から今年にかけて大田からの引揚者を取材した内容に基づいて【帰郷】をテーマとした展示をします。

戦前に動いていた機関車の小型版を実際に走らせながら客車の中や線路わきに、かつての住民の顔写真を置きます。また、証言集を編集してビデオで会場に流すことも考えているそうです。是非、のぞいてみてください！



알림 お知らせ

1. ワールドコロボ・フェスタ 2016 で会いましょう！ ～10月22日(土)・23日(日)～

毎年、十月に名古屋市栄のオアシス 21 で開催されるワールドコロボフェスタが、今年も10月の22日(土)と23日(日)の日中に開かれます。

このフェスタは、東海地方で国際交流や多文化共生などの活動を行っている諸団体が大集合し、それぞれの活動内容を担当ブースで展示・説明するものです。

私たちの会も、このフェスタに昨年、久しぶりに参加しました。チマチョゴリを華やかに着こなした日本人女性会員が、ブースを訪れた人たちに熱心に語りかけた結果、日韓交流に意欲的な新会員が数人誕生するなど大きな成果が上がりました。

「努力すれば、それだけ報いられる！」ということで今年もフェスタに参加します。

名古屋市周辺の会員の皆さんは、ぜひ10月22日(土)か23日(日)にオアシス 21 を訪れブース展示中の女性会員を激励してください！！

ワールド・コロボ・フェスタ 2016 とは？

開催日

平成 28 年 10 月 22 日 (土)・23 日 (日) 10:00～18:00

開催場所

オアシス 21「銀河の広場」

開催内容

NGO・NPO、企業、行政、主催者などによる国際交流・国際協力・多文化共生などの多種多様なテーマでステージやブース展示を行います。

(ワールド・コロボ・フェスタ 2015 の HP: <http://www.world-collabo.jp/>)

主 催

ワールド・コロボ・フェスタ実行委員会

【構成団体】

(公財)愛知県国際交流協会、(公財)名古屋国際センター

(独)JICA 中部、なごや国際交流団体協議会



昨年の日韓市民ブース



渡来陶工の里”九州縦断紀行を実施します

～11月23日(水)ー26日(土)～

今回の日韓交流史紀行は 420 年ほど前の文禄・慶長野役の際、秀吉軍によって強制的に連行され九州各地に窯を開いた朝鮮陶工たちの足跡と子孫たちの活躍ぶりを九州北端の唐津から有田、熊本、鹿児島・苗代川まで探訪します。陶工の里だけではなく、南に巡行してゆく途中では千数百年の昔、九州の豪族たちが朝鮮半島の新羅や百済などと結びついていた歴史の証を磐井の墓(親新羅)や江田船山古墳(親百済)に見ていきます。

※この旅行は講師を含め 30 名ほどが参加することになっています。(欠員が出た場合はその人数分、補充します)

交流の夏 感想文

교류의 여름 감상문

大邱の学生

初めて日本に触れた旅

～ユン・ソギョン～(慶北大学考古人類学科修士課程)

約 18 時間の船旅で日本に初めて行った。名古屋では、日韓市民ネットワークの皆さんと会い、おいしい夕飯のもてなしを受けた。日韓の文化交流に関心がある名古屋の人たち、経済学を専攻する学生や、新聞記者、考古学に関心が高い人などと色々な話をした。韓国で考古学は大学で専攻する人は関心があるが、一般の人はあまりない。一方、日本では専門で勉強する人でなくても古墳や土器など考古学に関心のある人が多いようで不思議だった。特に大学で機械工学を専攻した人が、高句麗の積石塚について勉強していると聞き、見習いたいと思った。

翌日からは日本の古墳を踏査した。日本の古墳を初めて実際に見たが、立地や規模がとても印象的だった。人工衛星写真を通じて平面の形状や古墳を囲む壕を見たりはしたが、実際に見ると本当に規模が大きか

食べて遊んで快適ホームステイ ～キム・ジヒョン～

日本に初めてついた時はとても暑かったが空がきれいだった。電車に乗って窓から見える日本のマンションはなんだかクレヨンしんちゃんの家を見るようで、とてもかわいかった。

ホームステイでは 早間さんが熊田さんの家に行くソギョンと私を迎えに来てくれた。ホームステイで心配だったのは私とソギョンは日本語ができず、ホストは韓国語を話せないことだったが、熊田さんは思ったより韓国語が話せる方で、とても親切にしてくれた。熊田さんが連れて行ってくれた回転寿司屋ではすしの大きさがとても大きく、私は何度も「すごい！」と繰り返した。今まで見た中で初めて見るような大きい寿司で、かむと食感もすごく良かった。

その後熊田さんの提案でカラオケに行くと、「雪の華」を歌ってほしいと頼まれ、歌が得意でない私は戸惑ったが一生懸命歌った。熊田さんは韓国の歌をたくさん知っていて色々歌ったが、私は日本の歌を歌なくて申し訳なかった。熊田さんは私たちが日本語を全くできないことをもどかしく思ったのか、家に帰ったら日本語の勉強することを提案したので、一時間ほど勉強した。

私が泊まった部屋の窓はとても広くカーテンを開けると、外の風景が見えた。日本は韓国と似ているようで違った。自分の家の窓からも毎日見ていたような田舎の風景なのに、日本はもっと可愛らしくて余裕があるような雰囲気だった。

この日も死ぬほど暑かったが、熊田さんが迎えに来ておいしいそばを食べた。日本の天ぷらは本当においしかった。熊田さんが趣味で行くというテニスコートも見たり、市内も色々回って洋服も買ったりした。今から思うと意思疎通が上手くできず、自分がりたいことばかりを提案して熊田さんを疲れさせたかもしれず、申し訳なく感じる。親切

だった。博物館や展示館では埋葬部分の構造も確認できたが、韓国で勉強した古代の日韓の文化交流がどういものなのか、直接目で見て学ぶことができた。

古墳だけでなく寺院も訪問し、日本文化の情趣を感じることができてとても良かった。特に、韓国から来た私たちのために丁寧に説明をしてくださった方たちのおかげで色々な話を聞くことができて、ありがたかった。滞在中はとても暑かったが、調査は非常に有意義だった。

調査の後、ホームステイでは 熊田さんに会った。熊田さんは韓国人歌手の Migi が好きで、韓国の文化に関心が深い人だった。韓国の歌を歌うためにカラオケにも行った。熊田さんが通うテニスクラブの友達とたこ焼きパーティーをしたことも、良い思い出になった。お世話になりました。

にしてくれた熊田さんに感謝の気持ちを伝えたい。

夕方に 6 人の友達が家に来てタコ焼きパーティーをすることになり、ドキドキしながら友達を待った。特に英語の先生だという京子さんが来ると聞き、やっと熊田さんとボディランゲージではなく話ができると思ううれしかった。京子さんが来てから色々通訳をお願いした。日本では韓国人が家でチヂミをつくるようにたこ焼きをつく



って食べるそうだが、皆が集まったたこ焼きパーティーをしたのは不思議な光景に見えた。たこ焼きを作るには熟練の技が必要で難しかったが、とてもおいしかった。食事の後、韓国の遊びユンノリをやろうと提案しボディランゲージと英語で遊び方を説明したが、皆さん



がとても面白がってくれてありがたかった。その後、京子さんと熊田さん、もう一人の方(名前を忘れてしまい本当にごめんなさい)とおしゃべりをした。その方はビッグバンが好きだそうで、私もビッグバンのファンなので、日本でもビッグバンは人気があると知って不思議だった。その方がビッグバンのクォン・ジヨンが軍隊に行

くことをとても心配していたかわいかった。名残惜しかったが深夜の一時頃にお別れした。

滞在は2泊3日と短い日程で名残惜しい気持ちが今も残っているが、'本当の「日本の姿」を垣間見れたようでとても

楽しかったホストとの旅 ～チョン・ジン～

日本に招待してくれた日韓市民交流ネットワーク会員のみなさま8月3日から7日まで5日間本当にありがとうございました。

今回の招待で日本の訪問は4回目でしたが以前の訪問はすべて考古学資料調査や勉強を目的とした訪問でした。旅行も兼ねて日本に行ったのは初めてとても楽しい経験でした。



奈良旅行

8月3日の歓迎会では初めてホストの河合真樹さんに会って挨拶をしました。翌日の4日からは後藤和晃さんが企画した日本の歴史文化の遺跡を探訪しました。奈良では井上主税さんの説明を聞き、法隆寺と橿原考古学研究所附属博物館、巨大な天皇陵を訪れ、5日には東大寺と平城宮跡、奈良博物館を調査しました。このような天皇陵の調査と博物館見学、日本の古代の遺跡見学は日本の歴史を勉強する上でとても参考になりました

個人的にはホストの方々との自由旅行は、奈良での調査以上に良い経験でした。私とサンベクさんはホストの河合さんの家に泊まり、6日には白川郷と温泉に行きました。白川郷は世界文化遺産に昔の日本の村の姿を残している美しい村でした。

わらで作られ、高く尖った家の屋根の形が不思議でした。白川郷の次には、高山で日本の伝統的な町並みを見学し

日本から持ち帰った大切な思い

～鄭址旺(チョン・ジワン)～(慶北大學校 考古人類學科 大學院生)

日韓市民ネットワーク・名古屋の招待で10年ぶりに日本を訪れました。釜山港国際旅客ターミナルから船で大阪に行き三時間ほどバスに乗って名古屋につき、日韓市民ネットワークの皆さんと初めてお会いしました。夕飯時に、後藤先生から「水崎林太郎を知っていますか」と聞かれましたが、私は寿城池の近くで暮らしているにもかかわらず、初めて聞く名前でした。水崎林太郎が池を作ったということを知り、自分の町の歴史もよく知らないことを恥ずかしく感じました。

翌日の奈良での調査時はとても暑かったですが、奈良の遺跡はそんな暑さも忘れさせるほどでした。中でも平城京や東大寺、また、様々な前方後円墳が一番印象的でした。平城京の発掘は50年以て続いてきたうえ今後さら

いい経験だった。また日本に行ったら、ホームステイをしたいと思う。三日間私たちのために世話をしてくれた熊田さんに心から感謝し、また会える日が来ると信じている。

ました。色々な伝統的なお店がありましたが、特に記憶に残っているのは日本酒の醸造場と伝統味噌のお店です。日本酒は韓国でも味が良いことで有名ですが、そんな日本酒の醸造場を直接見て、試飲したのは貴重な経験でした。

最後には平湯の森温泉に行きました。この温泉は高山市にある硫黄の温泉で、露天風呂では湯に入った瞬間に元気になるような感じがしました。私とサンベクさんは温泉水が大好きで一時間近く風呂に入っていました。名古屋に戻る途中には、高速道路で花火大会も見えて、とても美しかったです。



ホストの店の前で

今回の奈良、名古屋訪問は古代から現代に至る、日韓の友好的交流を確認するきっかけになったと思います。日本の古墳時代から多くの人や物が韓国から日本に渡って行き、逆に日本からも韓国に人や物が渡ったことを今回の調査で知ることができ、名古屋でのホストの方々との旅行を通じて現代にも韓国と日本の間に友好的交流が続いていることを体で体験できたと思います。これからもこのような韓国と日本の市民交流が続き、さらに日韓市民ネットワークのような団体が韓国にも生まれ、両国の市民の友好的な交流が続いたらと思います。

に50年間続くそうで、韓国慶州の発掘も平城京を見習って、100年計画の発掘ができればいいと思いました。



東大寺・大仏

日本の前方後円墳は、一目では全体を見渡せないほど大きくて墓ではなく丘陵のようでした。東大寺では周辺の鹿も見所でしたが、人間を圧倒するほど巨大な青銅の大仏が圧巻でした。本当にこんなものを人が作ったとは思えないほど大きい仏像や大仏殿の大きさも壮大で、もう一度来たいと思わされる場所でした。

8月5日、奈良の調査を終えて不安だったホームステイの日が来ました。実は日本に来るまで一人でホームステイをするとは思っておらず、人見知りをする性格なので本当に心配でした。運良く私のホストだった石田樹梨さんは韓国語がとても上手で、一歳年下の私に対して気軽に話しかけてくれたため気が楽になりました。夜にはじゅりさんのお母さんの手作りの夕食を食べ、本当においしかったです。日本語が下手でお母さんとはあまり話せなかったのですが、面倒を見てくださりありがたかったです。

ホームステイ期間中は、名古屋城や名古屋市内、石取祭りという桑名の祭りに行きました。名古屋城は徳川家康が築城した城で内部にある展示室と城外にいる本丸御殿を見ました。本丸御殿の装飾壁画は金でできていてきれいで、名古屋城には韓国語に翻訳された説明文もたくさん

「近くて近い国」への一步～チェ・ジョンブン～

今回の交流を経験するまで自分にとって日本は、いわゆる「近くて遠い国」にとどまっていた。韓国と中国との関係を専攻しているだけでなく、日本について接する機会が少なく関心が低かったのも、そうした意識の一因だったと思う。

日本には飛行機でなく船で行った。初めての日本訪問に初めての船旅、すべてが初めてだったので心配と共に、怖さもあったが、過去に両国の交流を担った人たちが通った道をそのまま通ると思うと、とたんに安心した。そのためか、心配と恐れはすぐにときめきと期待に変わっていた。



犬山城・天守閣で

日本側の愛情のこもった心遣いのおかげで、これまであまり注目しなかった日本の歴史や文化を思う存分感じることができた。特に言葉だけで聞いていた東大寺の大仏や自然と調和した全景、シカと人が一体になった空間は調査が終わった今でも静かな余韻として残っている。このような和の精神をなぜ私たちは忘れたのだろうか。そんな疑問に対する答えは、シカが跳び回る東大寺で見つけられたような気がした。

そして何よりホームステイ体験も忘れられない。私が訪問したのは後藤和晃先生のお宅だった。名古屋北部の郊外にあるこじんまりとした町で、電車で20分ほどの場所。

んありました。名古屋市内ではじゅりさんとお母さんがあちこち調べて連れて行ってくれ、韓国の家族に渡すお土産を買い回りました。昼食にひつまぶしのお店に入ると、思ったより値段がとて高く驚きましたし、高い食事をおごってもらいとても申し訳なかったです。また、ちょうど名古屋市内ではコスプレイベントがあり、初めて見る光景に少なからず衝撃を受けました。韓国にはない日本のユニークな現代文化を体験でき嬉しかったです。

桑名の石取祭りは日本で一番うるさい祭りといえます。山車に付いている銅鑼や太鼓を子ども達が叩き続けていましたが、中には三、四歳ぐらいの子供も太鼓をたたいて見えて面白かったです。道沿いの屋台で売っていた焼きそばやたこ焼きは韓国では見たこともないほど大きく、おいしかったです。

最終日は、名残惜しくも日韓市民ネットワークの皆さんとお別れしました。おかげでとても良い遺跡を回ることができ、親切な皆さんに出会って日本を知ることができてうれしかったです。今度は機会があれば日韓市民ネットワーク・名古屋の皆さんと一緒に韓国を旅行できたらと思います。

先生のお家には日本はもちろん、韓国の歴史や文化を深く愛する心が家のあちこちから感じられた。自分はこれほど韓国の文化に対する造詣を深められるだろうと思わされるほどだった。本棚のあちこちにある韓国の歴史や文化に関する図書、ミニチュアや様々な器などからは、文化に対する関心や日韓の民間交流に対する願いがあふれていた。ぼおっとしていたこれまでの自分の姿勢を改めて反省して振り返ることになった。

先生のお家での夕食の後、翌日は色々な場所を回った。とても蒸し暑い天気にもかかわらず、先生は少しでも多く、日本の歴史や文化に関わる思い出をつくらうとして下さった。そのおかげで、戦国時代の城や特別な神を祀る神社、展示館が閉まって見られなかった古墳時代前期の前方後円墳なども見学できた。老舗の田楽屋での昼食も忘れられないほど最高の味だった。

初めは少し気まずかった雰囲気も打ち解け、先生と一緒に楽しく有意義な調査を終えた。そしてその日はリオ五輪の開幕日で、夕方には皮肉にも韓国と日本の競技が盛り上がった日でもあった。試合そのものは勝敗を競うものだとしても、オリンピックの精神を鑑みれば先生のお家でホームステイをしながら両国に対する理解を深めたことと、その日にオリンピックが開幕したのは偶然の一致ではないだろうか。改めて今回のホームステイの幸運や楽しさ、そして感謝の気持ちを思い出す。

帰国のために荷物をまとめた日の晩、先生が静かに書斎に私を呼んだ。先生と一緒に旅行して撮った写真を一枚ずつプリントしてくださるとは…！その日の記憶を忘れずにいられるよう、一つ一つ刻み込んで下さる繊細さに感謝で言葉が出なかった。そのプレゼントは、韓国に戻って学業を続ける今も、その日の記憶を鮮やかに呼び起こしてくれる。

日本での調査経験は、これまで無知だった自分を目覚めさせる機会になり、広い目で世の中を見つめる機会にも

なった。自分は暑さに弱いためつらくて大変だったが、忘れられない思い出と、様々な学びを得る最高の機会だった。

一番特別だった 3 日間の日本旅行 ～イム・ヨンジェ～

私は日本と最も近い、韓国の都市釜山で生まれて育ちました。釜山では晴れた日には日本の対馬が見え、九州の福岡がソウルよりもはるかに近いので、釜山には日本人観光客が多く、釜山の人も日本によく旅行に行きます。私も 1995 年、6 歳の時に大阪に家族旅行に行きました。大学生になってからは学科旅行で九州に行ったことがあり、本格的に考古学の勉強を開始した後は、資料調査を目的に毎年日本を訪れています。それでも、今回の旅行は今までで一番特別な旅行でした。



背景は白川郷

それまでの日本訪問は韓国人同士で観光地に行ったり、資料調査を目的に古墳や資料館を回ったりするだけで、日本人や日本の文化のことはよく知りませんでした。でも、今回は日本人と一緒に行動し、日本の家族と一緒に生活しながら文化を経験することができてよかったです。

充実した奈良旅行とホームステイ ～チャン・ジュタク～

以前に朴天秀先生と一泊二日で日本に行ったことがあったが、ある程度の期間日本を旅行したのは今回が初めてだった。初めての船旅で長いと思った船内での時間も、研究室の同僚たちと一緒にだったためあっという間に楽しく過ごせた。



奈良・平城宮跡

大阪から名古屋に着くと、日韓市民交流ネットワークの皆さんが出迎えてくれたが、日本語の力が足りずあまり会話ができなかったのがとても残念だった。それでも韓国語

たことは間違いない。

皆が一緒に行った奈良県は韓国の慶州と似ている印象を受けました。しかし、すべてが遺跡になってしまった慶州とは異なり、多くの古代建築物が保存され実際に機能をしているのがとても不思議でした。そして平城京の発掘や復元過程は慶州の月城復元の良いモデルだと思いました。

奈良から名古屋に戻り、私は後輩のチャン・ジュタク君と早間さんのお家に行きました。早間さんの家は一宮市にあり、庭付きの 2 階建ての家でした。

翌日、早間さんの家族たちと白川郷に行きました。白川郷は内陸にあり韓国人がいくのは難しい場所だと聞いていたので、訪問できたのはとてもうれしく、とがった屋根が不思議でした。白川郷を見学した後に食品サンプルの製作体験もしましたが、本当に驚くほど実物と似たサンプルが多かったです。そこで作ったアイスクリームのサンプルは今も自分の部屋に飾っており、本物そっくりなみかんのサンプルもいくつか買って韓国にお土産に持ち帰りました。お土産をもらった人もとても不思議がって気に入ってくれています。

一番楽しかったホームステイでは、ジュタク君と私は日本語があまり話せず意思疎通が難しかったですが、根気よく話を聞き親切にしてくれました。何より 7 人の家族の皆さんが仲良く見えてうらやましかったです。最後の日の夜には日本の伝統遊び花火も一緒にできて特別な経験をしました。

もう愛知県の皆さんと旅行をして帰国してから 1 ヶ月が経ちます。韓国での生活に慣れて日本での楽しかった時間はまるで夢のようです。日韓市民ネットワークの皆さん、早間さんの家族のみなさん、本当にありがとうございました。

の上手な会員の方や日本語ができる友達がいたため少しでも会話を交わらせて良かった。

翌日からの遺跡調査では、奈良に移動して、天理市一帯の巨大な前方後円墳を順に見る機会を得られた。考古学を勉強する学生にとって、このような巨大な前方後円墳を見るのは本当に貴重な機会だった。

特に井上先生が各遺跡を説明してくれたおかげで、日本の古墳時代の歴史について考える良い経験になった。翌日に訪れた平城宮跡と東大寺では、特に東大寺大仏殿の巨大な仏像の姿がとても印象的だった。踏査の間に食べた弁当や食事は、どこでどのようなメニューだったか、今までも思い出せるほどおいしかった。日本の歴史を感じられるように様々な遺跡や博物館、寺院などを回る計画をたててくれた日韓市民交流ネットワークの皆様に心から感謝した。

翌日には早間さんの家でホームステイをしたが、日本語ができないことを身にしみて後悔した。韓国でもホームステイ経験がなく、日本の礼儀作法などを知らなかったため、最初は少し萎縮したが、早間さんのご夫婦や家族の皆さんが色々と話しかけてくれたり、一緒に行ったヨンジェ

さんが日本語で通訳をしてくれたりしたお陰で少しずつ気が楽になった。早間さんのご家族とは、白川郷と郡上八幡に一緒に行った。白川郷では、日本の伝統家屋を見学し、郡上八幡では食べ物の模型を作る体験もした。

早間さんのご家族とは旅行を通して少しずつ近づき会話をできるようになり、ホームステイが終わるころには名残惜しさを感じた。特別な料理を準備するなど色々な心遣い

会った人たちは皆、親切だった！ ～パク・ジュンヒョン～

ホームステイでは名古屋から 1 時間 30 分ほど離れた関ヶ原に行きました。私たちは、日本語を全然話せないのので心配をしましたが、森さんの奥さんが韓国語教室をやっている韓国人と聞き安心しました。到着して夕食を準備してくれましたが、韓国でも普段は食べられないステーキとサラダでした。本当においしくて、量が多かったですがきれいに食べ切りました。森さんの家には息子さんを含めた 3 人が住んでいましたが、息子さんは医学部の受験勉強中で、その日も翌日に模擬試験があったためあまり話をできませんでした。森さんの奥さんは色々な話をしてくれ、日本でお土産を買うのは大変だからといって靴下やハンカチなど色々なお土産を渡してくれました。家に泊まらせてもらうだけでも本当にありがたいのに、おみやげまでいただいて、何も準備して来なかった自分がとても恥ずかしかったです。

翌日は韓国語教室で勉強する方たちと一緒に関ヶ原を旅行しました。日本語の説明を韓国語に翻訳して教えてくれ、ここはワーテルローの戦い、アメリカの南北戦争とともに世界の 3 大戦争とされる戦いが起こった場所だと聞き、遺跡と展示館などを回りました。教えてくれたのは少し年配のおばあさんでしたが、学びに対する情熱や韓国語の実力もすごかったです。昼食で食べた回転寿司はこれまでで一番美味しかったです。韓国でこんな寿司を食べたことがなく、魚がとても新鮮、肉質もとても良い肉を使っていました。

昼食後は森さんと奥さんは関ヶ原祭りの準備があり、教室の生徒さんたちと旅行しました。韓国語がすごく上手な方ではなかったので意思疎通が少し大変でしたが、翻訳

をして下さったことには言葉で表わせないほど感謝を感じるが、その時には気持ちを上手く伝えられなかったことが本当に残念だ。次は韓国に来られた時に、必ず恩返しをしたい。

都市の様々な風景、生活の様子、言語などの類似点が多いのは、日韓が様々な影響を与え合ってきたことを端的に感じさせてくれた。

機や英語も使いながら楽しく旅行しました。



関ヶ原祭り

最後に、関ヶ原祭りを見に行きました。祭りで着る甚平を買ってもらいそれを着て参加しましたが、韓国では、伝統的な韓服を自然に着て祭りに行く人はほとんどいないので、日本ではごく自然に着ている姿を見て不思議でした。大きな祭りではなかったですが、色々な食べ物や花火大会などを楽しみました。マツリが終わってからは銭湯にも行きましたが、規模が大きく、韓国のチムジルバンのようなものが日本にもあると知り驚きました。

また日本に行ったら関ヶ原に行つて森さんの家に行きたいですし、森さんの親戚は釜山に住んでいるというので、もし釜山に遊びに来られたらぜひおもてなしをしたいです。

名古屋と日本との出会い ～イ・ジェデ～

初めて日本に旅行し、印象の強かった事柄が、今も頭の中に、いっぱい浮かんできます。

日本で特に感銘を受けたのは、まず次の2点でした。1点目は訪れる街という街が実に清潔できれいだという事です。そして2点目は人々や車の動き方などが驚くほど秩序正しく、整然としている事でした。

またレストランの飲食物など比べても、日本の方が質量共に優れており、価格的には韓国より安いように思えました。

このように、日本には韓国人も参考にできるような事象が、たくさん存在するように思われました。

ところで今回の旅行では大きな失敗をひとつ、してしまいました。帰国を前にラーメン店で美味しさのあまり、ラーメンを、いっぱい食べすぎて、ひどい腹痛を起こしてしまったのです。

ホストを始め多くの人たちから、いろいろ助けてもらいましたが、皆さんに迷惑をかけてしまったのは事実で、反省しきりです。これからは、お腹を安定させてから旅行に出かけます。

ホストや同行していただいた皆さんに受けた恩をどう返したらいいか考えています。本当にありがとうございました。また会いましょう！！

ユンノリで盛り上がった女子会 ～熊田 雅勝～

韓国大邱の慶北大学院生のキム ジヒョンさんと、ユン ソギョンさんの2名をお迎えしました。韓国の女学生2名をお迎えするというので、私のテニス仲間が集まってウェルカムパーティーを開催してくれました。同年代の女子10人で会話は、日本語、英語、韓国語入り混じってとても賑やかでした。最初は、韓国語が話せる子が誰もいなかったのが心配していましたが、何とかなるものですね。



彼女たちが喜んだのは「たこ焼き」でした。韓国では出来上がったものは見たことがあったそうですが、自分で焼くのは初めてで、串でたこ焼きをひっくり返すのも次第に上手になりました。

お腹がいっぱいになった頃にはすっかり打ち解けていました。すると、韓国の彼女たちから「ユンノリ」をしましょう！と提案されました。日本の女の子たちは「ユンノリ」初体験でしたが、日本のすごろくのようなもので何人いてもできるゲームだと教えてもらいました。ゲーム盤は紙に書いて簡単につくることができると教えてもらいました。最初は、キムチーム、ユンチームに分かれルールを学び、その後は個人戦。とっても盛り上がりました。日本にもすごろくはありますが、今どきの子供はコンピューターゲームばかりで日本の伝統的なゲームはやらないでしたね。棒4本あればどこでも誰とでも仲良くなれるゲームがあることを知り、テニスなどで海外遠征などに行ったときなど、海外の人と触れ合うときのコミュニケーションに役立つのではないのでしょうか。今回は2泊と短い滞在期間でしたので、日本の文化に触れる体験に案内できなかったのがとても残念でした。もう1日、ゆっくりとした時間があれば、近くの観光地へ案内できたのに…。

今回のホームスティの体験を通じて、韓国との日韓交流に少しでも役に立てるのであればこれからもいろんな行事に参加して行きたいと思いました。韓国へは度々訪問していますが、そこでは味わえない交流ができたと思います。

はじめてのホームスティファミリー体験 ～河合 真樹～

日韓市民ネットワークなごやの夏の一大イベントは、韓国の学生との奈良旅行とホームスティですね。去年は、マーズの影響で見送られることになりましたが、今年は、無事に行われました。

私は2名の男子学生をお預かりしました。我が家には娘しかいないので、主人は「息子が出来る」と大変楽しみにしていました。考古学を勉強している学生さんをどこに案内したら喜んでもらえるのか？楽しそうにあれこれプランを考えていました。

歴史好きな主人は、最初お城巡りなどを考えていたようですが、結局は温泉に行こう！ということで白川郷～高山～平湯温泉というコースになりました。



今年の夏は、非常に暑く、白川郷へ行けば多少は涼しいかな？と思ったのですが、日差しも強く汗をかきながら村の中を散策しました。合掌造りの家の中を見学した時に、細い板が一枚渡してあるだけの3階の蚕室でちょっと太めな2人は板にそっと足を乗せ、大丈夫か何度も確認していました。後で聞いたら「怖かった～」と言っていました。

合掌造りの家の中には、古い農機具と一緒に山で出土

した土器が展示してあり二人は、熱心にカメラで写真をとっていました。その姿を見て将来、立派な考古学者になるんだろうなと感じました。白川郷からは高山に行きました。高山では造り酒屋の前に大きな杉玉がかかっていたので、「新酒ができましたというお知らせですよ」と伝えました。私は、日本酒が苦手なので学生さん2人に新酒の試飲を勧めました。お店の人が升から受け皿にお酒をこぼれるほど注いでくれたら「おお～っ！」と嬉しそうな歓声を上げていました。涼しい風が通る中庭で、「美味しい！美味しい！」と日本酒を楽しんでいました。その後は、平湯温泉で温泉を楽しみました。

今回は、日本語が話せる学生さんがいたので、主人も安心して一緒に温泉を楽しみました。平湯温泉の「平湯の森」は沢山の露天風呂があり、それが珍しかったようで、「2人でどこかに行ってしまったけど、大丈夫かな？」と主人は心配していましたが、ニコニコ顔で2人は温泉から上がってきました。私たちはホームスティといってもお店の2階の空き部屋を提供しただけで夜は2人きりでしたが、Wi-Fi がつながる環境でしたので、2人で楽しく過ごしたようです。

最終日に集合場所の名古屋駅まで送った時、懇親会では日本語があまり話せなかったのに、皆さんすっかり日本語が上手になっていました。さすが、若い人は覚えが早い～と感心しました。

初めてのホームスティファミリー体験でしたが、とても楽しく良い経験になりました。

初！ホームステイ受け入れ ～石田樹梨～

昨年ホームステイ受け入れのお話がありましたが、MARSの影響で延期になってしまいました。そして今年、やっとホームステイの日程が決まったとのことで楽しみにしていました。私は日韓市民ネットワークの会員になって何年か経ちますが、ホームステイの受け入れは初めてでした。

ホームステイ初日には家で日本の家庭料理を食べてもらいました。また、次の日は一日自由行動だったので、名古屋城を見たり名古屋の街を案内しました。そして、夜には三重県桑名市で行われる“日本一やかましい”と言われている石鳥祭りにも出かけました。祭りにでかけた時に、祭りについて色々な質問を受けましたが、あまりうまく答えられず日本人だがあまり日本について知らない部分もあると思いました。お互い質問をしたりすることで日本の話をしたり、韓国のお話をしたりとても勉強になると実感しました。日本でホームステイするのは初めてとのことで、行く先行く先で様々なものに興味を持って質問をしたり、写真を撮った

りする姿がとても良かったです。

写真は祭りに行ったときに金魚すくいを体験した写真です。金魚すくいも日本らしいですね。ホームステイは2泊3日で3日目は大阪へ向かうためほとんど時間がありませんでしたが、とても早く時間が過ぎたように感じられました。ホームステイが終わってからホームステイを受け入れた他のホストの方の話を聞きましたが、こんな所にも行ったらいい、こんな体験をさせるのもいい、などとても勉強になりました。



金魚すくい

交流団受入を「共に学ぶ場」へと進化させたい ～鈴木健介～

8月4日～5日の日程で開催された慶北大学交流団の奈良調査旅行に同行した。参加者の奈良訪問に対する期待感の高まりは、すでに前日の歓迎会から強く感じられた。今回の参加者は、全員が考古学を研究している大学院生で、各人には、それぞれの研究対象たる時代や遺物がある。奈良旅行での訪問先との関連を織り交ぜつつ、自身の研究テーマを熱く語ってくれた。わけでも、奈良県立橿原考古学研究所への訪問に期待を寄せる学生が多く、今回の奈良訪問がたいへんに充実したものになるであろうことを暗示していた。

訪問先の遺構・遺物や展示に真剣なまなざしを向け、事細かなところもカメラで記録していた様子からは、参加者の高い熱量を感じた。

今回の奈良訪問が、慶北大学の学生にとって大変に有意義なものであったことに疑いの余地はないだろう。また、私を含む日本側の参加者にとっても、今回の訪問した見学先は、普段はなかなか立ち入ることのできない場所であったり、あるいは話を聞くことのできないことであり、たいへん貴重な機会だったはずである。「だからこそ」である。だからこそ、この機会をより充実した「交流」の機会へと発展させられないのかという思いを強く抱いた。残念ながら、私は考古学・歴史学については門外漢であり、どうしても「受け身」的なスタンスで臨んでいたことを否めない。しかしながら、せっかく考古学を専門とする大学院生が来日しているのだから、奈良の地で日韓の学生が共に学び、議論するという場へと進化させることができればと思う。

「言うは易し」であることは重々承知しているが、私からの提案は、東海地域で考古学ないし歴史学を専攻する学生に参加を呼びかけること、そして、(仮に見学先の数は少なくなってしまうとしても)訪問期間中に意見交換の場を設けることである。私は、両国の学生が共に学ぶことで得られるものがあり、そこにこそ、次の歴史を共に紡いでいく礎ができるものと確信している。

後藤さんをはじめ、事務局の皆さんのご尽力により、日韓市民ネットワークなごやの奈良旅行は、極めて質の高いものへと成長してきている。今年の奈良訪問を終えた今、私は頭の中で次のステージへ向けて進化を遂げていく未来像を想像し、期待に胸を膨らませている



平城宮跡・大極殿

私は、2日目からの参加であったため、「目玉企画」たる橿原考や、古墳群の見学、法隆寺参拝には同行することはできなかったが、全員とても熱心に先生方の話に耳を傾けていたとのことである。2日目には、平城宮跡、東大寺を見学した。両日とも、厳しい暑さの中での見学となったが、

日韓市民ネットワーク・なごや主催のホームスティ受入ホストとして初めて参加させて頂いた。事前に渡された「慶北大交流団受け入れスケジュール」を眺めながら、どう計画をたてようか？ 同行者は？ 食事は何がよいだろう？ かと、あれこれと考えた。

連れ回して疲れさせてもいけないし、思い出に残る場所にはお連れしたいし…。特に、当初予定の土曜日の午前中の過ごし方について思い悩んだ。考えた末、現在、韓国語と一緒に習っているメンバーに我が家に来てもらい、珈琲でも飲みながら拙い韓国語で会話を兼ねた歓迎会をしたいと考えた。学生達が気後れしてしまうかも知れないが、日韓友好に燃える小母さま達は大喜びだった。

この計画は、当初飛行機での来日予定が船に変更になったことで敢え無く潰えてしまったが、メンバーは本当に残念がっていた。



白川郷にて

ホームスティ当日、韓国の俊英である林英宰氏、張柱倬氏のお二人を我が家にお迎えした。二人とも背が高く体格も立派で、顔も似ており、まるで兄弟のような、我が家の子供達とほとんど同年代の好青年である。滞在期間は

2泊3日、と言っても初日は夜到着、最終日は朝出発という本当に僅かな時間である。とにかく寛いで良い思い出を作ってもらおうとだけ考えた。

土曜日の行く先は、本人たちの希望もお聞きし、世界遺産の白川郷に決めた。当日は、抜けるような青空で日差しがとても強かったが、木陰の風は爽やかで、いつの間にか、片言での会話も通じるようになっていた。学生達は胸に掛けたカメラのシャッターを幾度も切っていた。

帰途、徹夜踊りで知られる郡上八幡に寄り、宗祇水、そしてサンプル工房での製作体験に参加した。二人はこぼれたカップアイスを製作。これはスマートフォンの置台にもなるので、良いお土産になったことだろう。宗祇水では「古今伝授」を通して日本文学や歴史について説明をしたかったが、会話力がなく断念。いつの日か、古代史を含め、いろいろな話が出来る力を身につけたいと思いを新たにした。

メンバーを名古屋駅前でお見送りした翌々日の夕刻、後藤さんから、「一行が無事に大邱に戻られたこと、学生達が思いも寄らない歓迎振りにとても感激していた」との朴教授

からの伝言を頂いた。その旨を家族にも伝えた。我が家の子供達とも成人してからは、一緒に旅行する機会がめっきりと減っていた。今回のホームスティは、家族一同が韓国の素晴らしい若者達と知り合い、貴重な交流が出来ただけでなく、久し振りに子供や孫との旅行という楽しい思い出も作ることが出来た。このような貴重な交流の機会を与えて下さった日韓市民ネットワーク・なごやに心より感謝する次第です。

後記

今年の夏は去年、マーズ騒動で招待を見送った大邱学生交流団を一年ぶりに迎え入れることができました。大邱の学生の期待にやっと応えることができた…と少し気持ちが楽になりました。

さて改めて思い出すのは、今回の受け入れを支えたのは、去年、31名にも上る協力者や会員の皆さん方から寄せて頂いた27万円もの寄付金だったことです。

当時、両国の政府関係は硬直的でスキマ風が吹く状態でした。それだけに資金を送って頂いた皆さん方は「たとえ小さな小さな民間交流でも、そこから相手への信頼が芽生え、人間的な交流へつながれば良いのでは！」とお考えだったのでしょう。

今回の会報の後半は、大邱学生交流団のメンバーとホストたちの感想文を載せました。一読して「あゝやっぱり、やってよかったんだ！」と思いましたが、皆さん方は、どのように感じられたのでしょうか？

なお、今回の交流団に対し、春日井在住の企業家チョン・ヒスンさんから新たに支援があったことを報告しておきます。